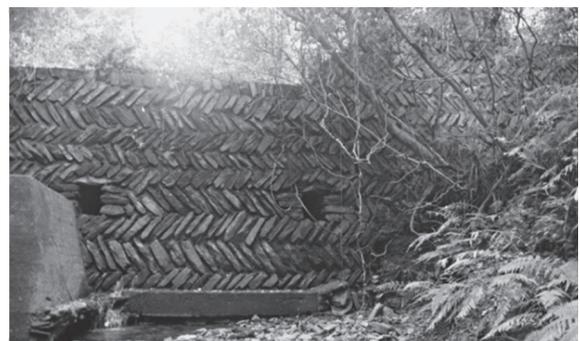


愛媛県の鉱床図 (提供：愛媛県総合科学博物館)

しています。愛媛県で有名なのが新居浜で、あとは、それぞれ小さい鉱山がいっぱいあったということが、この鉱床図から分かります。石灰は、石灰岩を含めていろいろな遺構があります。愛媛はさまざまな地層が分布していることが、興味深い多様な構造物が生まれる原因のひとつだと思います。

青石を使った構造物をいくつか挙げてみます。先ほど紹介したものに加えて、これは矢羽積みの砂防堰堤です。青石は堆積岩なので、板状に石がとれます。これは要橋、持ち送りの橋です。このように石を迫り出して橋を形づくっています。これと同じ形式の橋が木で造られたのが、山梨県の猿橋（国重要文化財）です（現在本体は鉄骨）。山口県でも同様な形式の橋を見たことがありますが、材料は地元でとれる御影石を使っていました。昔は地域材料を利用するのが当然なので、愛媛では豊富にある青石でいろいろな構造物が作られていました。青石を使った多種多様な構造物がこれだけ多く残っているのは、全国的に見ても愛媛県だけです。

私が担当したのは土木ですが、愛媛の土木構造物の特徴としてどのようなものがあるのか、について整理しておきます。これは産業にも関係しますが、新居浜の銅関係の遺構は、世界遺産に匹敵すると思っています。手続きを進めるには、所有者の住友がOKしないと駄目



青石堰堤 (伊方町)



要橋 (青石持ち送り橋) (伊方町)

なので、いまだ進展していません。石見銀山が世界遺産になったことはみなさんご存じだと思います。今、私が関係している遺産として、佐渡があります。暫定世界文化遺産に登録されています。金銀銅山ということで金の